

日本文化研究(マンガ・アニメーション)Ⅱ

科目ナンバリング ARL-210

選択 2単位

萩原 由加里

1. 授業の概要(ねらい)

普段、何げなく見ている作品であっても、自分では気づかない作り手の工夫が数多くあります。また、過去のさまざまなジャンルの作品を参考にしていたり、同時代の日本社会の在り方をも反映しています。日本を代表する作品をセレクトした上で、日本のマンガ・アニメーションの独創性について考えていきます。

2. 授業の到達目標

- 1、作品から現代の日本文化の特徴を読み解く能力を身につける
- 2、日本と海外における作品の違いを把握することで、日本文化の独自性とは何かを考える能力を身につける

3. 成績評価の方法および基準

期末レポート60%、平常点(毎回の小レポート)40%

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書:なし

参考文献

山田奨治編著 『マンガ・アニメで論文・レポートを書く 「好き」を学問にする方法』(2017) ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

毎回の授業で、次回に取り上げる作者もしくは作品を紹介するので、当時の社会的・政治的な出来事を図書館やネットを使って調べ、時代背景を把握したうえで授業に臨むこと。

6. その他履修上の注意事項

オンライン授業のため、映像の著作権等の関係から、授業内容が一部変更になる場合もあります。
リンク先の映像を、各自で視聴してもらうこともあります。

7. 授業内容

- 【第1回】 日本文化としてのマンガ・アニメーションとは
- 【第2回】 人形アニメーションの世界
- 【第3回】 多摩とアニメーション1 ―近藤喜文『耳をすませば』
- 【第4回】 海外の人形アニメーション ―特撮との関連性
- 【第5回】 新房昭之の世界
- 【第6回】 幾原邦彦の世界
- 【第7回】 新海誠1 ―『ほしのこえ』によるデビュー
- 【第8回】 新海誠2 ―『君の名は』の大ヒットへ
- 【第9回】 多摩とアニメーション2 ―高畑勲『平成狸合戦ぽんぽこ』
- 【第10回】 海外との比較2 ―国家が支援するカナダのアニメーション
- 【第11回】 細田守『時をかける少女』
- 【第12回】 片淵須直『この世界の片隅に』
- 【第13回】 加藤久仁夫『つみきのいえ』
- 【第14回】 海外との比較3 ―ロシアのアニメーション
- 【第15回】 マンガ・アニメーションの未来を考える